

15 柔道

1 日 時 令和5年 9月10日(日)
女子計量 9:00 審判・監督会議 9:30 開始式 10:00 競技開始 10:30

2 会 場 サイクルショップコダマ大洲アリーナ(柔道場)

3 実施要領

(1) 種 別 ① 男子都市対抗 ② 女子都市対抗

(2) 種 目 団体戦

(3) 競技方法

① 競技は、2～4チームにより予選リーグを行い、各パートの1位チームを決勝トーナメント進出チームとして選出する。

② 選出されたチームを抽選により組み合わせ、決勝トーナメントで順位を決める。

(4) 参加方法

① 出場者は、全日本柔道連盟に登録していること。

② 監督は全日本柔道連盟の公認指導者資格を有する者とする。

③ 監督は選手を兼ねることができるものとする。

④ 男子チーム編成は、監督1名、選手5名(先鋒から初段、次鋒は三段、中堅は参段、副将及び大将は四段以上2名の出場順位とする)、補欠3名の計9名とする。女子チーム編成は監督1名、選手3名(先鋒から体重の少ない順で配列)、補欠2名の6名とする。各配列における段位は問わない。

⑤ 男子において所定の階級に該当者がない場合、下位の階級者をもってあてることができる。女子において出場選手が2名だった場合は、先鋒の位置を空けることとする。

⑥ 原則としてオーダーの変更は認めないが、負傷又は止むを得ない理由により、選手(補欠)に変更が生じた時は、総監督会議までに所定の用紙に記入のうえ、2部県体事務局に申し出ること。ただし、選手(補欠)の変更は特別の事情のない限り認めない。

(5) その他

① 審判は、国際柔道連盟試合審判規定(2022年4月1日から施行の新ルール)による。

② 優勢勝ちの判定基準は、「技あり」または「指導2差」以上とする。

③ 判定の優劣は「一本」=「反則勝ち」>「技有」>「僅差」とする。

④ 男子の試合時間は、予選リーグ3分、決勝トーナメント4分とする。女子の試合時間は全て3分とする。

⑤ 都市対抗及び予選リーグの勝敗決定方法は以下のとおりとする。

ア 勝者数(「一本勝ち」、「優勢勝ち」等を問わない)の多いチームを勝ちとする。

イ 勝者数が同じ場合は、「一本勝ち」の多い方を勝ちとする。この場合、「不戦勝ち」、「棄権勝ち」、「負傷勝ち」、「反則勝ち」、「失格勝ち」等も、「一本勝ち」と同等に扱う。

ウ 前項における「一本勝ち」も同数の場合は、「優勢勝ち」のうち「技あり」次に、「指導差2以上」による「優勢勝ち」の多い方を勝ちとする。

エ 予選リーグにおいて内容が同等の場合は、その試合を引き分けとする。予選リーグにおけるチーム間の勝敗は、前項のア項、イ項、ウ項に基づき、「①チーム勝敗」「②勝者数」「③総得点」の順で決定するが、同率同点の場合は、自由代表者1名によって勝敗を決する。代表戦の本戦において勝敗が決しない場合は、時間無制限のゴールデンスコアにおいて勝敗を決する。なお、予選リーグにおいては、「一本勝ち」「技有勝ち」「僅差勝ち」にそれぞれ、「10点」「7点」「5点」の得点を与える。

オ 決勝トーナメントにおいて内容が同等の場合は、引き分けの下位から再試合を順に行い勝敗を決するものとするが、なお勝敗の決しない場合は、自由代表者1名によって勝敗を決する。代表戦の本戦において勝敗が決しない場合は、時間無制限のゴールデンスコアにおいて勝敗を決する。

⑥ 補欠の交替はチーム編成の順に従うものとするが、交替者の位置に補充すること。(上記(3)参加方法の③を参照)

⑦ ゼッケンについて

※選手は、郡市名・姓の入ったゼッケンを次の基準により必ず縫い付けること。

ア ゼッケンを付けていない者は失格とする。

イ 布地は白色(晒・太綾)

ウ サイズは、横30cm～35cm・縦25cm～30cm

エ 名字(姓)は、上側2/3、郡市名下側1/3

オ 書体は、太いゴシック(又は楷書)、男子黒色・女子赤色

カ 縫い付け場所は、上衣の後襟から10cm下部の所で対角線にも強い糸で縫い付けをする。

(下図参照)

図1

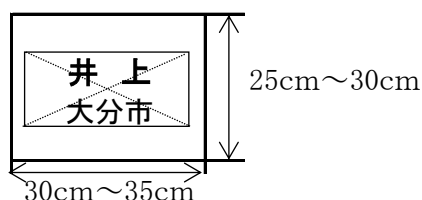
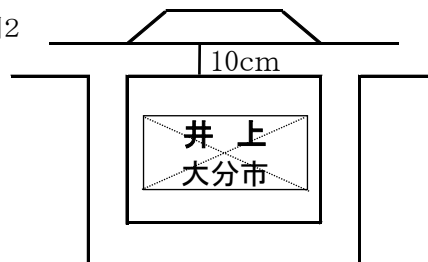


図2



⑧ 柔道着のサイズは、国際柔道連盟に準ずるサイズであること。(公認マークの有無は問わない)

⑨ 女子の黒帯は、白線入りの黒帯でも参加を認める。

⑩ 選手の有する段位に虚偽の申請があった場合、その郡市は失格とする。

⑪ 女子の軽量は、当日の9時から行う。

⑫ 各郡市帯同審判員を1名派遣する。男子・女子のみ参加する郡市についても、1名を派遣する。(派遣が困難な場合は、大分県柔道連盟まで連絡すること)